

令和の大改修

黒岩池ため池工事

現場見学会

黒岩池について

池名：黒岩池(くろいわいけ)
 形式：均一型・谷池
 堤高・堤頂長：12.3m・100.0m
 総貯水量：102.0千 m^3

改修後
 堤高・堤頂長：7.9m・87.7m
 総貯水量：39.3千 m^3

池名：黒岩上池／横池(くろいわかみいけ／よこいけ)
 形式：均一型・谷池
 堤高・堤頂長：8.8m・59.0m／5.7m・44.0m
 総貯水量：19.0千 m^3 ／3.0千 m^3

改修後
 廃止



- 南牟婁郡御浜町下市木にある農業用ため池
- 江戸時代(1666年ごろ)に築堤された
- 有形文化財(建造物)として御浜町指定文化財に指定されている(平成9年1月30日指定)
- 令和4年度より防災対策工事として改修工事を行っている

黒岩池の歴史

- 当時の下市木は「浜は片浜、漁はなく、土地は広いが草ぼうぼう」と言われ、荒地や雑木山、湿地帯で、波が高いときは潮が入って、米のとれるのは何年に一度という具合で貧しい村であった。
- そこで、寛文の頃(1661～1673年)、庄屋 大久保宗悟氏が発起人となり、西の平の荒地を開墾し、田地とした。
- この田地に農業用水をひくために、大久保氏や地域住民・多くの技術者たちによって、苦心の末、命がけで作られたのが黒岩池である。
- 大久保氏のお墓は林松寺(御浜町下市木)にあるが、地域では「大久保宗悟さんのお墓よりも高い墓を建ててはいけない」ということが代々受け継がれているそう。
- 戦後まもなく、当時の林松寺二十二世住職魚魯中和尚が、専門家に依頼して「西ノ平開田記」という芝居を作り、地芝居として公開した。
- 「西ノ平開田記」の台本は、現在も林松寺に所蔵されている。
- 黒岩池の築堤を記念し植樹されたとされているイブキは「市木のイブキ」として県天然記念物に指定(昭和28年)され、高さ約14m、幹回り約5mで均整のとれた美しい姿で残っており、現在も地域の暮らしを見守り続けている。



昭和初期の下市木の農作業風景写真→写真右奥に黒岩池が見える(見学会参加者より提供)



現場見学会の概要

- 【開催日時】令和5年10月25日(水) 14時00分～16時00分
- 【内容】
 - ・ため池について
 - ・黒岩池の歴史について(紙芝居)
 - ・工事の概要について
 - ・築堤当時の木製底樋、石製斜樋、石積みの見学

【開催までの経緯】

黒岩池は歴史あるため池であるが、地域で農業に関わる人が減り、黒岩池の歴史を知っている人は少なく、管理もままならない状況であった。

そこで、「この工事をきっかけとして、地域一丸となって歴史あるため池と地域を守っていってもらいたい」という思いを胸にした職員たちが、地域の人たちに黒岩池の歴史や役割等を伝え、地域の大切な資源としての価値を認識してもらう機会を設けようと企画したものである。

黒岩池の歴史をいかに分かりやすく伝えるか、試行錯誤の末、「西ノ平開田記」の台本を現代文訳にアレンジし、紙芝居として上演することとした。紙芝居は、工事に関わる職員たちが熱い思いで演じた。(左写真)

【効果】

地域住民をはじめ報道機関も訪れ、多くの人たちに黒岩池のことを伝えることができ、参加者からは「地域の宝として今後も守り続けたい」という声が聞かれた。また、当日は地元の多面的機能支払活動組織も参加しており、黒岩池の今後の維持管理については、この活動組織によって行われることとなった。

見学会当日の様子



見学会案内チラシ(表面) 参加者のしおり(表紙)